

「統計情報のXML利用環境の整備に関する調査」

第1回「統計XML化等調査研究委員会」議事概要

平成 21 年 12 月 9 日（水）

15 時 00 分～17 時 00 分

於：経済産業省 別館 8 階 846 号会議室

出席者	委員	情報セキュリティ大学院大学 教授 廣松 毅（委員長） 独立行政法人情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー長 小松 文子 経済産業省 CIO 補佐官 永井 道人 早稲田大学理工学術院 教授 山名 早人
	事務局	経済産業省 調査統計部長 佐伯 俊則 経済産業省 調査統計部統計情報システム室長 湯原 孝志 経済産業省 調査統計部統計情報システム室 参事官補佐 町田 昇 経済産業省 調査統計部統計情報システム室 係長 三川 幸英
	CTC	新、廣田、青木、森田、内田
	NRC	高島（司会進行）、近藤、速記者（小池）

1. 開会

2. ご挨拶

3. 出席者の自己紹介

4. 調査概要の説明

- (1) 今回の統計情報のXMLの利用環境配備の背景
- (2) 調査内容
- (3) 調査方法
- (4) 今後のスケジュール予定
- (5) 実施体制
- (6) 実施スケジュール

5. 調査方針、項目等検討

(1) 統計データ利活用調査について

検討の結果、以下の点について見直しを行い、調査を実施する。

○XML についての質問の主旨、説明資料が分かりにくいので、修正する。

○「データの標準化」などは、調査対象者に理解しづらいので、表現を見直す。

○XML の利点の説明が一般向けではないので、XML 化による利用者のメリットについての説明にする。

○大学によっては組織的に利用している場合や、個人的に利用している場合があるので、調査対象を増やす。

- ヒアリングの実効性を高めるため、ある程度の人数で統計を利用している部署を対象にすべき。アンケートにおいて統計の利用者数などを聞いておくこと。
- 外資系企業や新聞社なども対象に加えること。

(2) システム基盤技術調査について

検討の結果、以下の点について見直しを行い、調査を実施する。

- アンケート調査の項目からではシステム基盤に関する情報は得られないと思われる。対象や質問項目などを見直すこと。
- コストについては、目標とするサービスレベルによって大きく異なる。統計データの利用頻度などについても検討が必要。
- クラウドの使用については、統計毎にクラウド上に置けるデータ、置けないデータなどを仕分けした上で議論すべき。
- どの統計から手を付けるか等、ユーザのニーズを基本に検討すべき。

6. 第2回以降の調査研究委員会の予定

次回以降の委員会日程については、各委員の都合を調整し、下記日程とした。

第2回委員会 平成22年1月14日(木) 午後15時～17時 開催予定。

第3回委員会 平成22年2月18日(木) 午後15時～17時 開催予定。

○今後の連絡方法について

短期間で効率的に実施するため、資料の情報共有、連絡、会議室などにグループウェアを利用する。

7. 閉会

以上